

矢崎科学技術振興記念財団

19年度研究助成金に14人

矢崎科学技術振興記念財団（東京・港区、細川興一理事長）は科学技術の発展を目的に、その成果が科学技術の進歩に大きく貢献すると考えられた研究（新材料、エネルギー、情報の各分野が対象領域）を選考し、研究助成事業を行っている。

このほど2019年度の「研究助成金」受領者14人が決定した。同助成は「一般研究助成」「奨励研究助成」「特定研究助成」の3部門。

「一般研究助成（200万円）」は鹿児島大学学術研究院理工学域工学系の小

野智司准教授ら7件、原則35歳以下の若手研究者が対象の「奨励研究助成（100万円）」は兵庫県立大学大学院工学研究科の佐藤孝憲助教ら7件に助成金が贈呈される。

同財団で特定した、質の高い高齢者・身障者支援技術の開発▽モビリティ社会の革新（CASE, Maasなど）実現を支える基盤技術に関する研究の2テーマを満たす「特定研究助成」は審査の結果、該当なしとなった。

その他、国際的な学会での研究発表や共同研究をする際の渡航費を支援する「国際交流援助」13人と過去に同財団から研究助成を受けた研究者で優れた業績をあげた者に授与する「矢

崎学術賞」には功績賞として東北大学金属材料研究所の水口将輝准教授、奨励賞として京都大学大学院工学研究科の坂本良太准教授がそれぞれ選定された。予定していた研究助成金贈呈式は新型コロナウイルス感染症拡大リスクの高まりを踏まえて中止された。

同財団は矢崎総業の創業40周年を記念して科学技術にかかると振興を図り、公益の増進と活力ある社会実現に資することを目的に1982年に設立された公益財団法人。